

令和4年度後期自己評価

学校経営方針の7つの柱に沿っての分析と改善策

I 校訓

- ◎ 明朗親和 明るく朗らかで、互いに和やかに親しむこと (あかるく)
- ◎ 質実剛健 飾りがなくまじめで、心身ともに強くたくましいこと (つよく)
- ◎ 自主自律 自発的に考え行動し、自らの規範に従い自己を律すること (のびやかに)

II 学校教育目標 (めざす生徒像)

- ◇ ふるさとを愛し、自他の良さを認め合い、絆を大切にする生徒
- ◇ 社会の規範・秩序を守り、健康でたくましく生きる生徒
- ◇ 真理を追究し、夢の実現へ向け努力できる生徒

III めざす教師像

- 高い理想と強い使命感を持ち、学び続ける教師
- 確かな指導力を持ち、共感的生徒理解に努め、信頼される教師
- 教育的愛情と高い規範意識を持ち、心身ともに健全な教師
- チーム南部中の一員として、学校運営に積極的に参画する教師

IV 学校経営の理念

【経営理念】 「地域とともにある南部中学校の創造！」

～子どもたちの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐコミュニティ・スクールとして～

【実践理念】 「気づき・考え・行動 そして感動」

0 学校教育目標・学校経営

対象	質問内容	平均値	最頻値	前期平均値
教職員	0-(1) 本校の「学校教育目標」や「学校経営方針」は、今日的教育課題をふまえ、南部中学校の実態に即したものに なっている。	3.8	4	3.7
	0-(2) 私の学年、学級、分掌の教育活動計画は学校の「学校教育目標」や「学校経営方針」をふまえたものになっ ている。	3.6	4	3.5
	0-(3) 私は「めざす教師像」を意識しながら、日々の実践にあたっている。	3.3	4	3.2
	0-(4) 私は、経営理念「地域とともにある南部中学校の創造！」、実践理念「気づき・考え・行動 そして感動」を意 識して、教育活動を進めている。	3.5	4	3.4
保護者	0 本校の「学校教育目標」や「学校経営方針」は、今日的教育課題をふまえ、南部中学校の実態に即したものに なっている。	3.4	3	
生徒	0-(1) 私は、「学校教育目標」(めざす生徒像)を理解し、「あかるく、つよく、のびやかに」学校生活を送っている。	3.4	3	3.3
	0-(2) 私は、実践理念「気づき・考え・行動・そして感動」の過程を意識して、授業や行事、部活動など学校生活を送 っている。	3.3	3	3.3

【分析】

- 教職員アンケートの 0-(1)の平均値が 3.8、保護者アンケートの 0 が 3.4、生徒アンケートの 0-(1) が 3.4 となっている結果から、「学校教育目標」や「学校経営方針」は教職員、生徒、保護者に良く理解されており、学校や生徒たちの実態に即したものとされていると考えられる。
- 生徒アンケートの 0-(2)「実践理念『気づき・考え・行動 そして感動』の過程を意識して、授業や行事、部活動など学校生活を送っている」の平均値は、前期、後期とも 3.3 となっており、この実践理念を意識しながら生徒たちが学校生活を送っていることがわかる。
- 教職員アンケート 0-(3)の「私は『目指す教師像』を意識しながら、日々の実践にあたっている」の項目の平均値が 3.3 であった。目指す教師像に向けての意識の高まりがみられる。

【改善策】

- 校訓、学校教育目標、めざす教師像、学校経営の理念は、統合時の新南部中創立時の願いを元にしており、10 年間の経過とともに若干の修正を加えてはいるが、これまでの学校の歴史と文化を受け継いできた思いが込められている。教職員・生徒・保護者にも深く理解されていることから、基本的な内容は来年度も継続していきたい。
- 教職員が現状に満足せず、高い理想を持って教育にあたる意欲こそ学校の原動力となる。教職員の目標とすべき「めざす教師像」については、年度当初の職員会議を始め、各学期のはじめなど、節目節目に教職員で確認する機会を設け、今後も意識を高めていきたい。

1 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める <※教務主任、教頭、各教科主任>

- ①「コミュニティ・スクール」として、社会に開かれた教育課程の編成とその実践に努める。
- ②小中連携や「連携型中高一貫教育校」としての取り組みを進め、小・中・高の接続を意識した効果的な教育課程の編成と実践を行う。特に中・高においては体系化されたキャリア教育の推進に努める。
- ③新学習指導要領に基づき生徒や学校の実態に即して教育課程を編成、実施し、PDCAサイクルによって改善に努める。
- ④地域の特色を生かした教育を推進し、郷土への理解と誇りを持てるようにするとともに、外国語教育を充実させることを通して、グローバル社会の中で様々な人と協働できる資質の育成に努める。

1 「生きる力」を育む適切な教育課程

教職員	1-(1)	本校は、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域に積極的に情報を発信し、保護者や地域の声を学校経営や教育活動にいかしている。	3.7	4	3.6
	1-(2)	本校は、小中連携、連携型中高一貫教育校としての取り組みを推進し、小中高の連携を意識した教育課程の編成と実施に努めている。	3.6	4	3.6
	1-(3)	本校は、新学習指導要領に基づき、生徒や学校の実態に即した教育課程を編成し、PDCAサイクルによる改善を図っている。	3.6	4	3.2
	1-(4)	本校は、地域の特色を生かした教育活動を推進し、郷土への理解と誇りを育む教育活動を展開している。	3.6	4	3.3
保護者	1-(1)	学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができる。	3.4	3	
	1-(2)	学校行事は楽しく、生徒のためになっている。	3.6	4	
	1-(3)	輝城祭や音楽発表会は、生徒の豊かな心を育てる上で意義ある活動になっている。	3.7	4	
	1-(4)	学校は、地域の特色を生かした教育活動を推進し、郷土への理解と誇りを育む教育活動を展開している。	3.4	4	
	1-(5)	「福祉施設訪問」「職業体験学習」「ワイド相談」などのキャリア教育に関わる行事や進路学習は、生徒にとって将来を考える良い機会となっている。	3.5	4	
生徒	1-(1)	学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができる。	3.5	4	3.6
	1-(2)	学校行事は楽しく、自分のためになっている。	3.6	4	3.6
	1-(3)	学級活動、学年活動、生徒会活動(委員会)は集団での力をつける機会になっている。	3.6	4	3.6
	1-(4)	輝城祭や音楽発表会は力を伸ばし、成実感が得られる行事になっている。→後期	3.7	4	
	1-(5)	「職業調べ」「福祉施設訪問」「ワイド相談」「職場体験学習」「高校調べ」「進路学習会」などは、自分の将来や生き方を考える機会となっている。	3.6	4	3.6
	1-(6)	部活動は、自分の力を高め、授業では学べないことを学べる機会になっている。	3.6	4	3.6
	1-(7)	身延高校との連携(アシスト授業、合同部活動、サマーセミナー、キャリアセミナー、演劇指導など)は役に立っている。→関係している生徒のみ回答	3.5	4	3.5

【分析】

①について

○教職員アンケート 1-(1)の平均値が前期に比べ 3.7 に上がった。コミュニティ・スクールとしての取組をはじめ、学校だよりや学級通信などを活用し、保護者や地域住民へ積極的に情報発信を行うことができていることが数値に表れたと言える。また、学校運営協議会をはじめ、学年・学級懇談会、三者懇談等、保護者や地域住民の声を聞く機会を設けて、出された意見を教育課程に取り入れようと努めていることがわかる。

②について

○教職員アンケート 1-(2)の平均値が前期と同様の 3.6 であることから、本校の教育課程は、小中の連携、中高の連携(連携型中高一貫教育)を取り入れた教育課程に近づいていると言える。

○生徒アンケート 1-(7)の連携型中高一貫教育校としての取組(アシスト授業、合同部活動、キャリアセミナー、演劇指導など)について、生徒たちは 3.5 と前期同様に高い評価をつけており、生徒たちも中高連携事業の効果を肯定的に捉えている。

○生徒アンケート 1-(5)の福祉施設訪問、職業ワイド相談、職場体験学習、高校調べ、進路学習会などのキャリア教育や進路学習についての評価は、生徒の平均値が前期同様の 3.6 でこちらも高い評価となっている。また、保護者アンケート 1-(5)も同様に 3.5 と高い評価となっている。キャリア教育や進路学習が生徒にとって有意義な取組であると、生徒・保護者ともに捉えていることがわかる。

○生徒アンケート 1-(1)「学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができている」の平均値が3.5、最頻値が4と高い値であった。保護者アンケート 1-(1)は全く同じことを訊いているが、平均値が3.4、最頻値が3であった。数値的には若干、他の項目に比べると低い値である。これは判断が難しく3を選んだ保護者が多かったことが要因であると考え。

③について

○教職員アンケート 1-(3)の平均値は3.6であり、前期の3.2から0.4ポイント上がった。このことから、本校の教育課程は新指導要領に基づいた生徒や学校の実態に即したものにさらに近づいていると言える。学校評価を前期・後期に2回実施したり、学校行事の実施後には教職員、生徒、保護者等に事後アンケートを実施したりして、PDCAサイクルによる教育内容の改善にも取り組んでいる。また、来年度の教育課程を編成するにあたり、学年ごとや教科ごとに校内教育課程編成会議を開催し、今年度の教育課程を振り返り、検証しながら改善を図っている。これらの取組が数値に表れたと考える。

○生徒アンケート 1-(2)の「学校行事は楽しく自分のためになっている」の項目で、平均値が前期同様3.6と高い評価となっている。保護者アンケート 1-(2)も同様に3.6と高い評価となっている。依然として新型コロナウイルスのために内容を縮小変更した行事もあったが、学校行事は生徒たちにとって学校の楽しさの大きな要因になっていると考える。また、生徒アンケート 1-(4)、保護者アンケート 1-(3)の平均値がともに3.7という高い評価になっている。輝城祭や音楽発表会が豊かな心を育てる上でとても有意義で大切な教育活動になっていることがわかる。

○生徒アンケート 1-(3)の結果を見ると、前期同様3.6という高い評価になっている。学級活動、学年活動、生徒会活動を通して、集団の力を培っていることを生徒自身が実感していることがよくわかる。

④について

○教職員アンケート 1-(4)で地域の特色を生かし、郷土への理解と誇りを育む教育活動についての推進については前期の平均値3.3から3.6に上がった。前期と同様に、コロナ禍で、なかなか例年通りにできず、制限された活動になってしまっているという状況もあるが、その中でも工夫しながらできることを推進していることが評価に表れたと考える。特に、地域の歴史を描いた演劇「富士川物語」の鑑賞は、まさに地域の特色を生かした教育活動であり、郷土のことを知る貴重な機会となったと言える。また、保護者アンケート 1-(4)の結果を見ると、平均値3.4という高い値が出ている。このことから、地域の特色を生かし、郷土への理解と誇りを育む教育活動が推進されていると保護者も好意的に捉えていることがわかる。

【改善策】

①②について

- ・今後も継続してコミュニティ・スクールや連携型中高一貫教育校、小中連携の内容を教育課程に取り入れながら、生徒や地域の実態に即した教育課程を編成していく。また、特に小中連携については、9年間を見通してどのような生徒に育てたいのかを明確にした上で、9年間の教育課程を編成することが必要ではないかという意見が、第3回学校運営協議会の中で出された。非常に重要な視点であり、今後の検討課題である。

③について

- ・常にPDCAを意識しながら、全職員でカリキュラム・マネジメントを行い、年間指導計画の日常的なアップデートに力を入れていく。特に、学校評価の結果から改善策を踏まえた教育課程を編成していく。現在、来年度の教育課程を編成しているが、今年度を振り返り丁寧に検証しながら、来年度の教育課程を各教科部会、学年部会等で組織的に編成していくことが確認されている。また、諸行事については、縮小してもねらった教育効果が十分にみられることから、今後の行事内容を検証し改善を図っていく必要がある。

④について

- ・「地域とともにある南部中学校の創造！」は本校の学校経営理念である。しかし、地域の特徴を生かした教育活動は新型コロナウイルスのために例年通りの内容での実施が難しい状況が依然として続いている。生徒やその家族、教職員の健康や安全を第一に考えながら、感染対策や実施内容を検討し、実施できる方法を今後も模索していくことが求められている。

2 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、確かな学力の向上に努める <※研究主任、教務主任、図書館主任>

- ①各教科等の「見方・考え方」を働かせ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- ②自らの考えを发表或し、記述したりする内容を取り入れ、思考力や表現力を高める。
- ③情報活用能力の育成に向け、ICTを効果的に活用した授業を推進する。
- ④「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくりと個に応じたきめ細かな指導に努める。
- ⑤読書活動を推進し、授業と結びつけた家庭学習の習慣化に努める。

2 確かな学力の向上

教職員	2-(1)	私は、一人ひとりの学力の向上を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいる。	3.5	4	3.5
	2-(2)	私は、授業に自らの考えを发表或し、記述したりする内容を取り入れ、思考力や表現力を高める工夫をしている。	3.6	4	3.3
	2-(3)	私は、授業に「やまなしスタンダード」の視点を取り入れるとともに、個に応じたきめ細かな指導に努めている。	3.2	3	3.2
	2-(4)	私は、家庭学習を習慣化させるために、授業と結びつけた宿題や自主学習等の指導を行っている。	3.2	3	3.1
	2-(5)	本校は、朝読書や図書委員会の活動などを通して、読書活動を推進している。	3.5	4	3.4
	2-(6)	私は、学力を向上させるために、ICTの活用を心がけている。	3.1	4	2.9
	2-(7)	私は、新学習指導要領に基づき、生徒の学力を適切に評価し、授業改善を図るため、評価基準や評価方法を明確にした授業づくりに努めている。	3.5	4	3.3
保護者	2-(1)	教員は、生徒の学力を向上させるためにわかりやすい授業に努めている。	3.2	3	
	2-(2)	教員は、評価についてわかりやすく説明し、生徒の学力や努力を適切に評価している。	3.3	3	
	2-(3)	教員は、家庭学習を習慣化させるために、宿題や自主学習などの指導を行っている。	3.3	3	
	2-(4)	学校は、朝読書や図書委員会の活動などを通して、読書活動を推進している。	3.4	4	
生徒	2-(1)	授業は、わかりやすく理解できる。	3.4	3	3.4
	2-(2)	わからないところは先生に質問でき、先生の評価は公平である。	3.4	4	3.5
	2-(3)	授業では、めあて(目標)を確認でき、振り返りを行っている。	3.3	4	3.3
	2-(4)	グループ学習や意見交換、発表活動は、学習を深めることにつながっている。	3.5	4	3.6
	2-(5)	ICT(タブレット、デジタル教科書、大型テレビ)を使った授業はわかりやすい。	3.5	4	3.6
	2-(6)	私は、宿題や自主学習などの家庭学習を習慣的にやっている。	3.3	4	3.4
	2-(7)	私は、読書が好きである。	2.7	2	2.7

【分析】

①②について

○教職員アンケートの関連する項目を見ると、前期に引き続き「主体的・対話的で深い学びの実現」「思考力や判断力を高める工夫」「家庭学習の習慣化」「評価基準・評価方法の明確化」等に配慮した授業づくりを進めているという結果がでている。これより、本校では教職員が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に年間を通して努めていたと言える。生徒アンケートにおいても、関連する項目については概ね高い評価を得ている。

③について

○教職員アンケートの「私は、学力を向上させるために、ICTの活用を心がけている」については、前期に比較して向上し3.1であった。一人一台のクロムブックが整備され、教員がクロムブックを活用しやすくなったこと、また校内研で、クロムブックを活用している教員に、校内の環境下での活用する授業の公開と活用方法の紹介してもらい、その後に、教え合いながらクロムブックを具体的に操作してもらう時間を設定したこと、この2つの効果が現れたと考えられる。

④について

○教職員アンケート 2-(3)は昨年度 2.9 であったが、今年度は 3.2 と改善され、それが後期にも継続されている。教職員がやまなしスタンダードの視点を意識し、個に応じたきめ細やかな指導に努めることができていると言えよう。

⑤について

△教職員アンケート 2-(5)は前期が 3.4、後期が 3.5 であり、昨年度と同程度の数値であった。しかし、生徒アンケート 2-(7)では前期も後期も 2.7 である。読書以外に、スマホなど手軽に手に取れる上に、興味を引くメディアが多数ある現代社会の影響を本校も受けていることがうかがえる。質問が「私は読書が好きである」という「心情」を聞く形式となっている。来年度以降、「私は本を読む機会ある」など「行動」を聞く形式に変更することも検討しても良いかもしれない。

【改善策】

①②について

- ・各教科での「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に継続して取り組む。
- ・各教科において「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指し、発表したり記述したりする場面を多く取り入れるとともに、I C T も活用しながら対話を通して思考力や表現力を育てる工夫を行う。

③について

- ・授業でクロムブックを活用している教諭に、校内の環境下での活用方法を校内研で紹介してもらい、クロムブックを具体的に操作してもらう時間を設定する。
- ・一人一実践を通して、クロムブックを使用する場面をつくることに取り組む。

④について

- ・「やまなしスタンダード」を強く意識した授業改善に継続して取り組む。

⑤について

- ・読書活動の推進については、どの学年も朝読書の雰囲気は落ち着いており、学級ごとに朝読書の時間に図書館を利用する「図書読」などの図書委員会の取組を今後も継続させていく。
- ・家庭学習については、生徒の多くは習慣化していると答えているので、「授業と結びついた家庭学習」、「生徒が成果を実感できる家庭学習」を研究し指導していく。

3 一人一人の個性を大切にし、思いやりの心や豊かな心の育成に努める <*生指主事、教頭、道徳主任、生徒会主任>

- ①「特別の教科 道徳」のより良い授業づくりに取り組み、効果的な道徳教育を推進する。
- ②共感的理解を基本とした生徒指導に努め、基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。
- ③生徒主体の自治的集団づくりを推進するとともに、すべての生徒が所属感や自己有用感を感じられる学級経営・学年経営に努める。
- ④「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの予防、早期発見、迅速、丁寧な対応を心がける。
- ⑤長期欠席（不登校）や集団不適応の改善を最重点課題とし、生徒や保護者の気持ちに寄り添った教育相談体制を築くとともに、専門家や外部の関係機関との連携を図りながら取り組む。
- ⑥情報モラル教育を推進し、インターネット、スマホ等の利用に伴うトラブルや危険を防止する。
- ⑦生徒指導上の諸問題には全教職員の共通理解を図り、チームとして迅速・適切・丁寧に対応する。
- ⑧町内各小学校、高等学校と情報を共有し、効果的な生徒指導を展開する。

3 思いやりの心や豊かな心の育成

教職員	3-(1)	私は、「特別の教科 道徳」の趣旨や目的に即したより良い授業づくりに取り組んでいる。	2.8	3	3.1
	3-(2)	私は、共感的理解を基本とした生徒指導に努めるとともに、基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上に努めている。	3.7	4	3.4
	3-(3)	私は、すべての生徒が所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営に努めている。	3.4	4	3.4
	3-(4)	私は、いじめ等の早期発見、早期対応に努めると共に、いじめ等を許さない人間関係づくり、集団づくりに努めている。	3.6	4	3.7
	3-(5)	本校は、長期欠席や集団不適応の生徒や保護者に寄り添い、関係機関と連携しながら、可能な支援に取り組んでいる。	3.7	4	3.6
	3-(6)	本校は、インターネットやスマホ等の利用に関わる情報モラル教育を行っている。	3.5	4	3.0
	3-(7)	本校では、生徒指導上の諸問題について、職員間で共通理解を図り、担当者だけでなくチームで対応を行っている。	3.5	4	3.5
	3-(8)	本校は、中1ギャップ解消のために、生徒指導について小中連携が図られている。	3.3	4	3.3
	3-(9)	本校では、授業、特別活動(学級活動、生徒会活動、学校行事など)、部活動など、すべての教育活動の中で道徳教育が行われている。	3.4	4	3.3
	3-(10)	本校では、生徒や保護者との面談や家庭訪問、スクールカウンセラーや心の教室相談員の活用などを通して、教育相談体制の充実に努めている。	3.8	4	3.8
保護者	3-(1)	道徳の授業は、豊かな心を身につける時間になっている。	3.4	3	
	3-(2)	学校は、生徒の悩みや問題について、家庭と連携を図りながら、適切に対応している。	3.4	3	
	3-(3)	学校は、いじめ等の早期発見、早期対応に努めるとともに、いじめ等を許さない人間関係づくり、集団づくりに取り組んでいる。	3.4	3	
	3-(4)	スクールカウンセラーや心の教室相談員は、生徒や保護者の悩みや不安を解消するために役立っている。	3.4	4	
	3-(5)	学校行事(学園祭、音楽発表会、修学旅行など校外行事、儀式など)は、望ましい人間関係、集団への所属感や連帯感などの育成につながっている。	3.6	4	
生徒	3-(1)	道徳の授業は豊かな心を身につける時間になっている。	3.3	4	3.4
	3-(2)	私は、学校や社会の決まりやマナーを守っている。	3.6	4	3.6
	3-(3)	私は、学級や学年に安心できる居場所があり、大切にされている。	3.3	4	3.4
	3-(4)	私は、様々な悩みや心配事について相談できる先生がいる。	3.3	4	3.3
	3-(5)	私は「南中ライフ」に自分の思いを書いている。	3.2	4	3.3
	3-(6)	私は、自分を大切にするとともに、相手の立場を考えたり思いやりたりしている。	3.4	4	3.5
	3-(7)	私は、インターネットやスマホ、ゲーム機の利用について危険性を意識している。	3.6	4	3.6

【分析】

①について

△教職員による自己評価結果を見ると 3-(1)の平均値が 3.1 から 2.8 に低下した。教職員の声を聞いてみると、「経験が浅いこともあり、より良い授業とはどういうことをいうのかがまだわからない」「自分なりの授業展開がまだ確立されていないので授業に対して学びたいことが沢山ある」「授業を重ねていく中で生徒の実態に基づいたさらにより良い授業づくりを行おう考えると、より良いレベルが上がり、自己評価が厳しくなった」等があがりました。なお、保護者・生徒は 3.3 以上の結果が出ており、日頃より担任を中心に道徳の授業づくりに熱心に取り組んでいる成果であると考えられる。

②について

○教職員による自己評価結果を見ると 3-(2)の平均値が 3.7 に上昇した。保護者アンケートを見ても「生徒の悩みなどについて家庭と連携しながら適切に対応している」平均値は 3.4 となっている。生活ノートの活用、二者・三者面談の実施、自治活動（学年、学級、生徒会による）の取組等の成果が表れていると考えられる。

③について

○教職員による自己評価結果を見ると 3-(3)の平均値が 3.4 であった。生徒アンケート 3-(3)の平均値は 3.3 で所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営に全教職員が一丸となって努めている成果であると考えられる。保護者アンケート 3-(5)の平均値は 3.6 から様々な学校行事が望ましい人間関係や所属感、連帯感を育成するのに役立っていると思われる。

④について

○教職員による自己評価結果を見ると 3-(4)の平均値が 3.6 であり、保護者アンケート 3-(3)でも 3.4 の評価を得ている。日頃から全教職員による丁寧な生徒の観察や定期的なアンケートはじめとする早期発見、未然防止を常に意識して、迅速に指導・対応をしていると成果であると思われる。

⑤について

○教職員による自己評価結果を見ると 3-(5)の平均値が 3.7 であった。ステップルームの運用や S C や心の教室相談員との連携、教育支援センターのチャレンジ教室の活用、関係機関と連携してのケース会議の開催などに力を入れてきた結果だと思われる。長期欠席者に対し、特別支援コーディネーターが中心となり、関係機関を入れたケース会議を開くなど、組織的な対応につなげている成果であると考えられる。

○教職員による自己評価結果を見ると 3-(10)の平均値が 3.8、保護者アンケート 3-(4)の平均値が 3.4、生徒アンケート 3-(4)が 3.3 となっている。学級担任を中心にきめ細かく家庭と連絡を取り合い、S C とも連携しながら教育相談体制の充実に努めた成果であると考えられる。

△生徒アンケート 3-(4)が 3.2 となっており、「生活ノート」に自分の思いを書くことができていない生徒が一定数いることがわかる。

⑥について

○生徒アンケート 3-(7)の平均値が 3.6 で、多くの生徒がインターネット、スマホ、ゲーム機の危険性を意識していると答えている。また、教職員による自己評価結果を見ると 3-(6)の平均値が 3.0 から 3.6 に上昇した。教職員が教科をはじめ、様々な場面で生徒の実態に応じて対応したり、12 月 8 日には県精神保健福祉センター所長志田博和さんによる「ゲーム・ネット安全利用教室」を実施し、スマホ・ゲーム依存について知ること、正しい使い方を学ばせる機会となったりしたことによるものであると考えられる。

⑦について

○教職員アンケートの 3-(7)の平均値は 3.5 となっており、生徒指導上の出来事とその対応を生徒指導個人記録簿に記録し、運営会議や職員会議で共通理解を図りながら、チームでの対応を行っている結果だと考える。ただ、生徒指導個人記録簿への記入は学級担任だけでなく指導に関わった教職員により、学級ごと記録することになっているが、徹底しきれていない現状がある。

⑧について

○教職員による自己評価結果を見ると 3-(8)の平均値が 3.3 であった。学校公開授業日に町内小学校の先生方の参観を促したり、参観後、小 6 の頃の元担任と中 1 の学年主任・担任・学年所属職員とで情報交換会を行ったりした成果であると考えられる。

【改善策】

①について

・道徳推進教師を中心に、学級担任だけでなく学年主任や所属職員など学年職員で協力しながら、年間指導計画に基づいた道徳の授業を実施していく。また、日常的に、教材研究の段階から学年内で

悩みを共有し合ったり、より良い授業とはどういうものか、そのためにはどのような展開を仕組むのか、学びあう機会を学年主任が中心となり、意識的に声をかけ合ったりする。なお、3学期の授業参観では道徳の授業を行い、保護者や地域住民に見てもらおう予定である。

②について

- ・引き続き「共感的理解」に基づいた生徒理解に努めていく。生徒の思いをよく聞き、個々の特性や多様性を尊重しながらも生徒によく考えさせ、生徒が納得できるような指導を行う。

③について

- ・一人一人の変化に気を配りながら個に応じた指導をチームで行っていくと共に、所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営のための資料としてハイパーQ Uを活用する。また、悩みや心配事に自分で対処できないときには助けを求める「SOSの出し方に関する教育」を推進していく。

④について

- ・いじめはこれまでと同様にどこでも起こり得るという認識を持ち、積極的に認知を行い、小さな事案にも迅速に丁寧に対応する。いじめアンケートや生活ノートへの記述、二者面談、生徒の表情などあらゆるものから情報を積極的に収集し、早期発見、早期対応に努めていく。また、生徒の自治的な取組として生徒会主催の「いじめを考える集会」を実施する。

⑤について

- ・長期欠席や不登校についてはこれまでと同様に本校の最大の課題と捉え、生徒、保護者に寄り添い、SC、SSW、教育支援センターなど外部の関係機関の力を積極的に活用すると共に、ステップルームの効果的な運用や校内研修等によって教員の専門性を高めるなど校内体制の強化を図る。また、これ以上長期欠席者を増やさないように、悩みを抱えている予備軍を早期に把握し、丁寧な取り組みや支援に努めていく。その際、教職員が一人で抱え込むことなく、チームとして対応していくことができる職員室内の雰囲気をさらに大切にしていく。
- ・「生活ノート」に自分の思いを書くことができている生徒が一定数いることから、生活ノートの活用を全職員で確認しあい、悩んでいることや困っていることなどを始め、生徒の素直な思いが綴られるような活用をめざす。

⑥について

- ・情報主任、道徳主任、養護教諭、生徒指導主事と連携し教育課程の中に情報モラル教育を位置づけ、計画的に実施していく。
- ・昨年度、各クラスで行った「情報モラル」に関する授業を、今年度も2学期・3学期で担任だけでなく学年職員が協力し合い、クラスごともしくは学年ごと行う。

⑦について

- ・全教職員の共通理解に関しては、日常的に職員室で生徒に関する情報の連絡・報告を行うとともに、掲示板の効果的な活用や生徒指導記録簿をその都度、分掌ごと責任をもって記録する。記録に関わって徹底するため、学年主任を中心にその都度記入を呼びかける。
- ・生徒指導記録簿などを基にしながら、運営会議で情報を共有し、生徒理解に努め、指導や対応に当たっているが、まずは学年内で日常的に共通理解を丁寧に進めていくことは継続して意識して取り組んでいく。

⑧について

- ・小学校との授業参観を行ったり、情報交換を丁寧に行ったりする。身延高校との連携は数学・英語のサポートも含め、引き続き継続していく。
- ・入学予定の小学校6年生の情報については、小学校との情報交換を丁寧に行い、次年度の当該学年職員に記録として引き継ぐことを徹底する。また、小学校に出向き、児童の授業や休み時間での様子を複数の教職員で観察し、情報収集に努める。高校との連携も引き続き継続していく。

4 健康な身体の保持と体力向上を図り、健康安全への実践力を高める <*体育主任、教頭、保健主事、養護教諭、部活動主任>

- ①保健体育の授業を中心に、教育活動全体を通じて自ら運動を実践する態度を育て体力の向上を図る。
- ②「南部中部活動に係る活動方針」のもと、生徒を主体にした適切で効果的な部活動運営に努める。
- ③健康・安全・食に関する教育を推進し、健康で安全な生活を送るための生活習慣の形成に努める。
- ④生徒や教職員の健康管理に努め、情報を共有するとともに、緊急時の対応を的確に行う。

4 体力の向上と健康安全

教職員	4-(1)	私の学校では、保健体育の授業や部活動、体育的行事などを中心にして自ら運動を実践する態度の育成と体力の向上に努めている。	3.7	4	3.6
	4-(2)	私は、本校の「部活動に係る活動方針」に基づき、生徒を主体にした適切で効果的な部活動運営に努めている。	3.4	3	3.4
	4-(3)	本校では、健康・安全・食に関する教育の充実が図られ、健康で安全な生活習慣を身につけられるよう指導している。	3.7	4	3.3
	4-(4)	本校は、生徒や教職員の健康管理に努め、健康に関わる情報が共有され、緊急時の準備や心構えができている。	3.6	4	3.5
保護者	4-(1)	学級活動(学級での話し合い活動や取り組み)は、自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育成するためにつながっている。	3.5	3	
	4-(2)	生徒会活動(委員会活動や生徒総会など)は、より良い学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度の育成につながっている。	3.4	3	
	4-(3)	部活動は、生徒の技術や体力の向上、異年齢集団の中でのコミュニケーション能力の育成などにつながっている。	3.6	4	
	4-(4)	学校は、生徒の健康状態を把握し、適切に対応している。	3.5	4	
生徒	4-(1)	先生は、生徒の健康状態を把握し、けがや病気に適切に対応してくれる。	3.6	4	3.8
	4-(2)	保健体育の授業や体育的行事は、体力を向上させ、運動習慣に役立っている。	3.6	4	3.6
	4-(3)	学校では、健康や安全、食の大切さを学ぶ機会がある。	3.6	4	3.6

【分析】

生徒評価の平均値が全項目 3.6 以上となっている。これは、教職員が部活動や学校行事の中で体力の向上について熱心に指導していること、また、健康安全について日頃から丁寧に対応していることの成果であると考ええる。

①について

○教職員による自己評価を見ると、4-(1)の平均値が 3.7 と高い値となった。保健体育の授業の充実については、コロナ禍ではあるがよりよい授業づくりを目指して取り組むことができた。今後もコロナの対策を行いつつ、生徒が主体的に深い学びにつながる授業を組み立てていく必要がある。今年度は、南部町駅伝に参加する部も多いので、引き続き多くの教職員で関わりながら意識を高めていきたい。生徒の評価では、4-(2)の平均値が 3.6 という高い値となった。引き続き運動習慣を身に付けさせるためにも、健康体力づくり一校一実践運動を職員全体で共有し、全校体制で取り組んでいきたい。

②について

○教職員による自己評価を見ると、4-(2)の平均値が 3.4 となった。部活動については、コロナの影響がありながらも、南部中の伝統や教員の熱心できめ細やかな指導により、高い意識の中での部活動を維持している結果だと思う。部活動の意義や役割、それぞれの部活動の方針などを示し、それを理解させる中で生徒がさらに主体的に取り組める部活動運営を進めていきたい。

③について

○教職員による自己評価を見ると、4-(3)の平均値が昨年度の 3.3 から 3.7 と高い値となった。生徒の評価では、4-(3)の平均値が 3.6 という値になった。日常の健康観察や健康管理・教育等により良い結果となっていることが分かる。養護教諭を中心としたきめ細やかな対応、迅速な行動、測定やたよりの発信等の健康教育がしっかりと行われている。教員の日頃からの生徒への声かけや関わりをより丁寧に行っていきたい。また、今年度、健康体力づくり一校一実践運動として、「朝食を毎朝食べる」割合を 85%から 95%にすることを目標値としている。教職員全体での関わり、委員会活動の取組を通して食に関する教育を推進している。

○今年度、「生活リズム記録シート」の取り組みを定期的に行った。自分自身の生活リズムを客観的

に見ることで、改善点に気づき、「今回は前回よりもここに気をつけて生活ができた」などの反省も見られるようになった。回を重ねるごとに、気づきを行動に移そうとする生徒が多くみられるようになり、健康な生活を送ろうとする意識付けになったのではないかな。

④について

○教職員による自己評価を見ると、4-(4)の平均値が昨年度 3.5 から今年度 3.6 と、高い値を維持している。生徒の評価では、4-(1)の平均値が 3.6 となった。日常の健康観察や健康管理・教育等について、教員の日頃から生徒一人一人への声かけ、適切な関わりが行われていることが分かる。同時に養護教諭を中心としたきめ細やかな対応、迅速な行動、測定やたよりの発信等の健康教育がしっかりと行われている。また、食物アレルギーなどの対応や共有も行われている。生徒評価が高い値を維持しているものの、昨年度の 3.8 から 3.6 に少し下がっていることは気になる。コロナ禍での生活に慣れてきているが、日常の健康観察や生徒への対応をより丁寧に行っていきたい。

【改善策】

①について

- ・コロナ対策に応じた授業内容の検討、ICT活用など、生徒が主体的で深い学びにつながるよう研究を進めていく。
- ・新体力テストの結果を基に分析し、全教職員、全生徒に還元し、冬場の体力づくりの具体的な活動を計画・実施する。
- ・保健体育の授業や部活動を通して、体力作りやトレーニングメニューの工夫をし、生徒が主体的に取り組めるような仕組みをつくる。
- ・授業前の 800m走をできるだけ実施する。

②について

- ・生徒にも南部中学校部活動運営方針を示し、丁寧に説明する中で部活動を行う目的や目標をしっかりと確認する。
- ・短時間でも、成果が上がるように練習メニューを工夫し実践する。特に冬場は朝練の時間が確保できないので全部活動一斉にトレーニングをする時間も定期的に設ける。

③について

- ・保健健康教育（保健の授業）においては、より専門的に、そして生徒の深い学びにつながるよう養護教諭や外部の方にも入っていただいたりしながら、生徒の実態などに合わせた指導を行う。
- ・保健健康教育（保健の授業）でICTを活用しながら主体的に学ばせ、健康で安全な生活を送るための生活習慣を自ら考える時間を設ける。
- ・保健・給食委員会と協力して食育を推進する。健康体力づくり一校一実践運動として、目標としている「朝食を毎朝食べる」割合を 85%から 95%にするための取組をする。
- ・生徒指導を中心に、生徒自らの危険回避能力の育成、防犯（スマホSNS等）防災教育を定期的に行う。
- ・養護教諭が中心となり、「生活リズム記録シート」の取組を今後も継続していく。また、3学期には、睡眠を中心とした生活習慣の改善についての保健集会を予定している。

④について

- ・引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を進める。

5 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に努める <※特別支援コーディネーター、教務主任>

- ①校内委員会や個別のケース会議を開催し、個別の生徒の実態を共有し、合理的な配慮のある効果的な支援を行う。
- ②特別支援学校や医療機関など外部の関係機関と連携して、効果的な支援を推進する。
- ③多様性を認め合える集団づくりのための交流・共同学習等、障がい（者）理解教育の機会を設定する
- ④特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のため、実態に応じた校内研修を実施する。

5 ニーズに応じた特別支援教育・多様性

教職員	5-(1)	本校は、校内委員会（運営会議）やケース会議を開催し、支援が必要な生徒に対して、可能な合理的な配慮のある支援を行っている。	3.7	4	3.7
	5-(2)	本校は、特別支援学校や医療機関、福祉保健課や子育て支援課などの関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な支援を進めている。	3.7	4	3.7
	5-(3)	本校は、多様性を認め合うための交流学習・共同学習や障がい（者）理解教育の場面を設けている。	3.0	3	3.0
	5-(4)	本校は、特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のために、実態に即した校内研修を実施している。	3.3	3	3.0
保護者	5-(1)	学校は、一人一人の生徒の個性を尊重し、様々な障がいを持っている人に配慮している。	3.5	4	
	5-(2)	学校は、特別支援学校や医療機関、福祉保健課や子育て支援課などの関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な支援を進めている。	3.5	4	
生徒	5-(1)	学校では、様々な人の違いや障がいを持っている人について考える機会がある。	3.4	4	3.5
	5-(2)	私は、困っている人の役に立ちたいという思いがある。	3.7	4	3.7

【分析】

①について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(1)の平均値が3.7であった。これは昨年度後期より0.2ポイントアップした今年度前期の数値をキープできている。担任だけでなく、保健室、その他の関わり合いから知り得た情報を共有し、後期においてもいくつかの対応を行うことができた。継続的な支援も行われている。そのようなことが影響していると思われる。

②について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(2)の平均値が3.7であった。これは昨年度後期より0.2ポイントアップした今年度前期をキープできている。医療機関や児童相談所、特別支援学校等へ相談したり、アドバイスを受けたりする事案も継続して連携していることが、数値に反映されていると思われる。

③について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(3)の平均値が3.0であった。これは昨年度後期より0.3ポイントアップしている前期の数値をキープしている。ステップルーム、特別支援学級、保健室など生徒が過ごしやすい場所が複数設置されている本校であるが、担任の配慮により、交流学級の敷居も低く参加できる場面では参加するという体制が継続されている。

④について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(4)の平均値が3.3であった。これは前期の値を3ポイント上回った。しかしながら、生徒の評価結果を見ると、前期の3.5ポイントから、0.1ポイント下がっている。生徒向けの一斉行事などがなかったためだと分析する。

【改善策】

①～③について

- ・全てにおいて数値が上昇もしくは同値であった。継続して対応していくと同時に、数値に現れない部分についても見逃さず対応していきたい。

④について

- ・教師にとってどうなのか、そのことは生徒にとってどうなのかを常に考えていきたい。

6 安心・安全を基盤とした、家庭や地域とともにある学校づくりに努める <※教員、教務班、各学班>

- ①学校運営協議会の機能を充実させ、学校支援地域本部と連携を図る中で、コミュニティ・スクールとして家庭や地域、関係機関との連携・協働を進め、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ②地域の人的・物的資源の学校教育への活用と学校と中学生が地域に貢献する活動を積極的に進める。
- ③学校安全計画、防災・防犯等の危機管理マニュアルや防災・防犯教育を実行性のあるものに改善するとともに、地域・保護者・関係機関との連携を強化し、安全管理体制の充実・徹底を図る。
- ④PTAとの連携を深め、保護者同士の繋がりを強化し、家庭教育の推進を図る。

6 安心安全、地域とともにある学校づくり

教職員	6-(1)	本校は、学校運営協議会の機能を活用し、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。	3.6	4	3.7
	6-(2)	本校は、地域の人的・物的資源を教育活動に活用するとともに、生徒が地域に貢献する活動を推進している。	3.5	4	3.4
	6-(3)	本校は、危機管理マニュアル等を実効性のあるものに改善しているとともに、保護者や地域、関係機関と連携して安全管理体制を整えている。	3.8	4	3.5
	6-(4)	本校は、PTAとの効果的な連携を深め、学校と家庭、保護者同士の繋がりを強化している。	3.3	3	3.0
保護者	6-(1)	学校は、保護者や地域の意見や声を積極的に聞くための機会や場を設定している。(学校評価や各種アンケート、学校運営協議会の取り組みも含めて)	3.5	4	
	6-(2)	南部中学校の生徒は、地域の行事に積極的に参加している。	3.5	4	
	6-(3)	学校は、有効な防災・防犯のための訓練や教育を行っている。(保幼小中合同引き渡し訓練も含む)	3.6	4	
	6-(4)	学校は、校舎内外の施設・設備を点検し、安全に配慮している。	3.5	4	
	6-(5)	学校は、学校行事や学校開放日を活用し、保護者や地域の方々に活動の様子を積極的に公開している。	3.6	4	
	6-(6)	南部中学校の生徒は、学校の内外を問わず、よく挨拶をする。	3.5	4	
生徒	6-(1)	私は、地域の自然や歴史・文化を学んだり、体験したりすることの意義を感じる。	3.4	4	3.3
	6-(2)	私は、地域の役に立ちたいと考えている。(地域行事への参加も含めて)	3.4	4	3.4
	6-(3)	非常災害時に備えた避難訓練に真剣に参加している。	3.6	4	3.7
	6-(4)	校舎内外の学校の施設や設備は、安全である。	3.2	3	3.4
	6-(5)	私は、学校でも地域でも、あいさつを心がけている。	3.6	4	3.7

【分析】

①について

○教職員アンケート 6-(1)「地域とともにある学校づくり」についての平均値は前期 3.7、後期 3.6 となり、保護者アンケート 6-(1)の「保護者や地域の意見を聞く場の設定」については平均値 3.5、6-(5)「積極的公開」については 3.6 となっている。今年度もコロナ禍の状況は続いており、中止または実施を延期した学校行事もあった。しかし、輝城祭や音楽発表会については、学年ごとに保護者の入れ替え制等を行い、可能な限り生徒の活動を発信する機会を持つよう努めた。また、行事の際には参観者に感想や意見を書いていただき改善に役立てたり、月 2 回発行した「学校だより」や「学年通信」「学級通信」「保健だより」「図書館だより」など、学校の様子を保護者や地域の方々に発信したりしていることから評価が高かったと考えられる。

②について

○教職員アンケート 6-(2)の平均値は 3.5 となっており、地域の人的・物的資源の学校教育への活用では、規模を縮小しながらも、2 年生の中高連携キャリアセミナーや 1 年生のワイド相談、箏曲指導や書写指導、芸術鑑賞教室として 3 年越しの演劇「富士川物語」の上演などが行えたこと、地域貢献については、区ごとに中学生の自主防災組織を編成し地域防災訓練での貢献活動を計画したこと、富士川流域クリーン活動や地域清掃、資源回収などが影響していると思われる。生徒アンケート 6-(1)(2)から、生徒たちは地域の歴史や文化などについて学ぶ意義を理解し、地域の役に立ちたいと考えている。また、保護者アンケートの 6-(2)から、生徒たちの多くは地域の行事に積極的に参加していると思われる。あいさつを学校内外で心がけている（よくする）については、生徒の平

均値は3.6、保護者3.5と高い値となっており、生徒のあいさつを心がける習慣が身に付いていると分析できる。

③について

○今年度は土砂災害の避難確保計画に基づく避難訓練を含め、年間4回の避難訓練を休み時間や予告なしの形でより実践的に実施することができた。教職員アンケート6-(3)の学校安全管理体制の整備についての平均値は3.8であった。学校の施設設備の安全について、保護者アンケート6-(4)は3.5、生徒アンケート6-(4)は3.2となっている。保護者アンケート6-(3)の防災・防犯についての訓練は、保幼小中合同引き渡し訓練も実施できたことから3.6と高い値となっている。また、自転車の乗り方など、今年度も地域から注意を受けることもあったが、9月に自転車安全教室を実施し、生徒の交通安全への意識を高める取組を行った。

④について

○PTAとの連携については、教職員アンケート6-(4)の平均値が3.3、保護者アンケート6-(5)は3.6であるが、PTA組織改編により専門部廃止の影響が見られると分析できる。コロナ禍で縮小または中止したPTA行事もあったが、資源回収やPTA学年学級懇談会などは実施できた。しかし、学校と家庭、保護者同士のつながりを強化するため、効果的なPTA活動の推進をさらに図る必要がある。

【改善策】

①について

- ・コロナ禍ではあるが、できる限り学校行事や学校開放期間等の参観の機会を保障する。
- ・学校運営協議会の協議（熟議）を深めるため、年間1回はワークシートの活用を取り入れる。
- ・学校運営協議会での協議を踏まえ、地域学校協働活動としての具体的な取組を推進する。

②について

- ・学校支援地域本部及び地域コーディネーターとの情報交換等を通じた連携を強化する。
- ・区ごとに編成した中学生の自主防災組織の具体的な取組を推進する。
- ・町や自治会の求めに応じ、生徒からボランティアを募り、地域につなげるボランティア活動（仮称「南中ボランティア」）の実施について検討を進める。

③について

- ・様々な場面を想定したより実践的な避難訓練を年間4回実施する。
- ・通学路点検後の改善点等を生徒にも周知し、日常的な交通安全指導を強化する。

④について

- ・来年度に向けて、PTA本部役員会や評議員会で保護者同士のつながり強化の方策を協議する。
- ・今後に向けて、PTA本部役員会や評議員会で資源回収の運営方法等について協議を進める。
- ・コロナ禍ではあるが、できる限りPTA学年学級懇談会の機会を保障する。

7 教職員としての専門性や指導力を高め、チームとして教育活動を推進する <*教頭、研究主任、情報主任>

- ①校内研究の充実を図りながら授業改善・指導力の向上を図るとともに、学校の課題に関わる校内研修を実施する。
- ②職員室の同僚性を高め教員としての力量を伸ばし合うとともに、様々な教育課題に「チーム南部中」として力を合わせて取り組む。
- ③業務の重点化と精選を行うとともに、統合型校務支援システムを活用しながら、可能なことから教職員の働き方改革を推進する。

7 教職員の能力の向上とチーム学校

教職員	7-(1)	私は、校内研究に積極的に参加し、授業の改善や指導力の向上を図るとともに、学校課題についての校内研修に積極的に参加している。	3.5	4	3.1
	7-(2)	本校は、職員室内で共に学び合い、力量を高め合う関係があり、様々な教育課題に職員全体がチームとして取り組んでいる。	3.5	4	3.3
	7-(3)	本校では、業務の重点化や精選が行われ、可能なことから多忙化の改善が図られている。	2.9	3	2.7

【分析】

①について

○教職員アンケート 7-(1)の平均値は 3.5 である。今年度は、研究主題「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」、研究副主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」のもと、教科別研究やブロック別研究の形態を取り入れながら校内研究を進めた。コロナ対策のため、7月に予定していた研究授業（保体）は中止したが、10月（数学）と12月（社会）は指導主事を招聘して実施できた。また、ICTの活用については、研究主任が中心となり、クロムブックの実際の活用方法についての研修を行った。夏季職員研修として、学級経営や集団づくり、緊急時の対応、災害対策備品の確認と使用方法、教育相談的な生徒指導についても研修を行った。

②について

○教職員アンケート 7-(2)の平均値は 3.5 であった。今年度は、新採教員もいるため、学級経営や生徒指導について職員室で学び合う場面が多く見られ、教職員の「チーム南部中」としての意識が高まってきていると分析できる。しかし、すべての教員が一人一実践を行い、互いに授業を参観し合うことは不十分であった。また、運営会議の協議内容が学年内での共通理解に至っていない部分もあり、情報共有の意識が不十分などところがある。授業等における生徒の呼び方についても配慮が十分ではないところもあり、改善が必要である。

③について

△教職員アンケート 7-(3)の平均値は 2.9 であった。業務改善のために導入された統合型校務支援システムについては、掲示板やアンケート機能の日常的な活用が進んだ。また、年度当初に成績処理への積極的な活用も教職員間で確認され、授業改善と併せて成績処理への活用が広がった。職員会議においては、令和3年5月より始めた電子データでの提案が定着し、ペーパーレス化を推進した。しかし、教職員アンケートの結果を踏まえると、昨年と同じく低い数値であり、可能なことからだけでは教職員の働き方改革が進んでいない状況がある。業務の重点化と精選を通して教職員の働き方改革を推進していくためには、これまでの取組に加えて、諸会議の見直しなどの学校運営に関わる改革を令和5年度に向けて検討し実現していく必要がある。

【改善策】

①について

- ・校内研究会の効果的な運営方法を検討しスリム化を図る。
- ・ICTの活用を推進するため、クロムブックの実際の活用方法の理解が深まる研修を実施する。
- ・来年度も夏季職員研修を実施し、本校の教育課題について全教職員で学び合う機会を設定する。

②について

- ・すべての教員が2学期中に一人一実践を完了できるよう、5月の人事評価の自己観察書作成時に合わせて実施計画を作成する。

- ・運営会議の情報共有が不十分な部分については、掲示板を活用した情報提供も実施する。
- ・授業における生徒の呼び方については、原則「〇〇さん」とすることを積極的に呼びかけていく。

③について

- ・職員会議や校内研究会を通して、統合型校務支援システムの成績処理への活用のための情報提供や情報交換を継続して行う。
- ・管理職は勤務時間外在校時間が月 4 5 時間を超えた教職員への退勤を積極的に呼びかける。
- ・令和 5 年度は 2 0 回以上のきずなの日を設定し、その日を定時退勤日に位置付けて取組を進める。
- ・令和 5 年度に向けて、諸会議の見直しなどの学校運営に関わる改革の検討を進める。

8 その他

教職員	8-(1)	輝城祭や音楽発表会は、生徒の豊かな心を育て、自己有用感や成就感を得られる行事になっている。(後期のみ)	3.9	4	
	8-(2)	身近な職業調べ、職場体験学習、ワイド相談、キャリアセミナー、進路学習などはキャリア教育の視点で意義ある行事になっている。	3.5	4	3.4
	8-(3)	ふるさと探訪、スキー教室、県内めぐり、修学旅行などは、集団生活や社会でのルールやマナーを学び、自治的能力を育む機会になっている。	3.7	4	3.6
保護者	7-(1)	生徒は、学校のたよりや通知、連絡物を保護者にきちんと渡している。	3.3	4	
	7-(2)	学校は、各種のたよりやホームページなどで学校の様子を保護者に伝えている。	3.4	4	
	7-(3)	アシスト授業や行事や部活動での連携など、南部中・身延中・身延高校の「中高連携」の取り組みは、「学習意欲の向上」や「基礎学力の定着」につながっている。→(3年保護者)	3.4	3	
生徒	7-(1)	私は「脚下照顧」「無言清掃」「合唱」「応援」「集団行動」など南部中の文化は大切だと考えている。	3.6	4	3.7
	7-(2)	私は、学校のたよりや通知、連絡物は保護者にきちんと渡している。	3.4	4	3.5
	7-(3)	私は、学校が楽しい。	3.3	4	3.3

- 教職員アンケート 8-(1)の平均値が 3.9、8-(3)が 3.7 と高い評価であることから、教職員は輝城祭、音楽発表会、ふるさと探訪、スキー教室、県内めぐり、修学旅行などは教育的価値が高い行事であると感じている。
- 生徒アンケート 7-(1)の平均値が 3.6 と高い評価であることから、「脚下照顧」「無言清掃」「合唱」「応援」「集団行動」などの南部中の文化を大切だと感じている。
- 生徒アンケート 7-(3)「私は学校が楽しい」についての平均値は 3.3 であることから、多くの生徒が学校を楽しんでいると感じている。一方、「そう思わない」と答えた生徒が 5 人、「あまりそう思わない」と答えた生徒が 1 0 人おり、それらの生徒がなぜそう感じるのかという理由を探るとともに、学校教育の中でそれらの生徒が楽しさや満足感を感じられる手立てを最優先に考えていきたい。また、学校に登校ができなかったり、教室に行けなかったりする生徒も多くいる。数字に一喜一憂せず、焦らず個々の生徒や保護者の気持ちに寄り添い、共に歩む姿勢で取り組んでいきたい。